

## 発達障害の支援 I

---

---

---

---

---

---

---

---

### 支援に際して…

- 一つの支援法ですべてが解決するわけではないが、一度にたくさんのは出来ない
- 試行錯誤はあたりまえ
- LD、ADHD、ASDなどの診断名で支援手段は自動的に決定されない→必ず個人の特性に合わせる
- 個人の状態や環境に応じて支援方法を調整する  
→マニュアル通りではうまくいかないことも…

---

---

---

---

---

---

---

---

### 支援に際して…

- 継続的に支援効果をモニターする
- 期待した効果が見られなかった場合…
  - 調整できる箇所を「一つずつ」微調整してみる
  - 環境的要因をチェックする
  - すぐに効果が見られないかもしれないが、長くても2週間以上何らかの変化が見られない場合は要チェック
  - 本人の現在、そして将来両方の視点での支援
- “不得意なもの”ではなく、“得意なもの”を最重視していく

---

---

---

---

---

---

---

---

## 本人との対話のポイント

- 本人がわかる形式で対話
  - 本人独特の、個人内だけの表現法、理解の仕方を発見する
  - 自分の言っていることと相手の言っていることがシンクロしているかを常に確認
- 自分の常識を基準に話をしない
- 発達障害の子どもに「がんばれ！」ということの危険性→すでにギリギリまで頑張っていたら…？
- 本人の思い・考えを整理整頓する手助け
  - 過剰な「こうすべき」の提示に注意

---

---

---

---

---

---

---

---

## 環境調整: 教室

- クラブルーム内の情報を視覚的に整理
  - 子どもによってはたくさんの掲示・展示物は混乱する
  - 子どもが何に注目すべきかを考慮
  - 授業時の板書と黒板周りの掲示物が子どもにとって見分けられているか注意
- 「見えない境界線」がはっきりわからない子どものエリアを具体的に見せる
  - 机のまわり
  - 体育館や広場など床に座る位置
  - ビニールテープなどが便利
- 提出物のトレイなどはいつも同じ場所にする

---

---

---

---

---

---

---

---

## 環境調整: 生徒の机、ロッカーの整理

- 道具や教科書等を置く場所を明示する
  - アイコン
  - ラベル
- 仕切りや箱などを利用して、だいたい似たようなものをそれぞれに入れる
- 登校直後、また下校直前にすることはロッカーや、鞆をかける場所などにリスト化して貼っておく

環境調整について詳しく知るには、「構造化」のキーワードで資料を検索すると良い

---

---

---

---

---

---

---

---

## 応用行動分析 ポジティブ行動支援

- Applied Behavior Analysis: ABA
- Positive Behavior Support: PBA
- 子どもに問題行動に代替する生活的機能性をもった行動を教える
- 問題行動の引き金となる先行事象を調整し、社会的に望ましい行動が起きるような刺激を増やす
- 適切な適応行動に対する強化子を調整する

Dunlap, G. (2008). Positive behavior support: Assisting families with behavioral strategies in home and community settings. *Autism Advocate*, 53(4), 27-33.

---

---

---

---

---

---

---

---

## 問題行動を持続させる機能的関係

かまって欲しい、注意を向けて欲しい  
いま、これがしたい。あれはしたくない  
嫌いな勉強・課題をしたくない  
社会的な義務から逃れたい  
感覚的・生理的要求・逃避

---

---

---

---

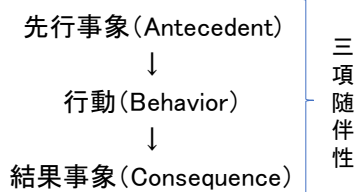
---

---

---

---

## ABC分析



対象行動が持続している場合、その先行事象や結果事象と行動が機能的関係にあると仮定し、その関係を観察データを分析することによって解明する

---

---

---

---

---

---

---

---

## 基本的なABC分析

時間	先行事象	行動	結果事象
2校時 (算数)	プリント作業に 取り掛かった	お笑いネタを突 然やった	・先生が叱った ・みんなが笑った
3校時 (理科)	先生が実験の 解説をしている	「せんせい～、は らへった～！」と 叫ぶ	・先生が叱った ・みんなが笑った

---

---

---

---

---

---

---

---

## ABC分析の仮定と支援

- ・注目要求か？
- ・自分がよくわからない作業が始まると(先行事象)、  
自分ができることで注目を得たい(行動)
- ・先生の叱責、クラスメートの笑い(結果事象)は、  
本人の行動を強化し、同様な条件下では同じよう  
な行動を起こす可能性は高くなる。  
↓どうする？
- ・本人の注目要求を適切な形で満たす
  - ・本人がわかるところで適宜質問をする
  - ・本人のそばで話し、適宜本人に確認する
  - ・本人が得意なことで、クラスの手伝いをしてもらう

---

---

---

---

---

---

---

---

## 行動マネジメントの基本

	刺激を与える	刺激を取り除く
強まる 対象行動の 生起	正の強化	負の強化
弱まる	罰	消去

---

---

---

---

---

---

---

---

## 正の強化

- 個人の行動のすぐあとに、本人の好きな刺激を呈示することによって、その後の行動生起頻度が増加すること

宿題をやってくる  
↓  
先生に褒められる  
↓  
次回もやろうという気になる

---

---

---

---

---

---

---

---

## 負の強化

- 特定の行動の後に嫌な刺激がとりのぞかれることによってその後の行動生起頻度が増加する

退屈な授業が始まる  
↓  
「お腹が痛い」と言って保健室で寝る(授業回避成功)  
↓  
退屈な授業の時は、体調が悪いと訴える

---

---

---

---

---

---

---

---

## 消去

- 強化されていた行動への強化をやめることによって、その行動の発生率を減少させること

おねだりすると、先生は遊び時間を延長してくれた  
↓  
おねだりしても、先生は延長してくれなくなった  
↓  
おねだりすることはなくなった

---

---

---

---

---

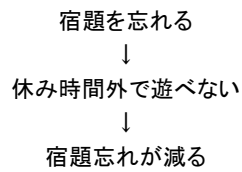
---

---

---

## 罰

- 個人の行動のすぐあとに、本人の嫌いな刺激を呈示することによって、その後の行動生起頻度が減少すること



---

---

---

---

---

---

---

## ABAのポイント

- 問題行動の代わりに適切な行動を強化することによって、問題行動を減少し、適切な行動を獲得させる
- 強化を状況に合わせて適宜調整すること
- 本人がわかり、かつ好きな強化を用いること
- ペナルティや罰はなるべく避ける

---

---

---

---

---

---

---